

山口コ・メディカル学院 学校関係者評価報告書

山口コ・メディカル学院では、学校運営や教育活動等の現状を点検して、更なる改善・向上を図るため、平成 26 年度から自己点検に取り組み、山口コ・メディカル学院の自己点検として、教職員実態調査と学生実態調査を実施し、本校のホームページ上で報告書を公表しています。

また、平成 27 年度からは学校運営や教育活動等の現状を点検して、更なる改善、向上を図るため、自己評価に取り組んでいます。そして、この自己評価報告書をもとに、本校と関わりのある有識者で構成される学校関係者評価委員会の委員から、学校運営や教育活動等について、御指導・御意見をいただきました。ここに学校関係者評価の内容について報告いたします。

学校関係者評価委員のみなさま方には感謝を申し上げますとともに、全教職員が一丸となって改善に取り組み、教育水準の更なる向上を目指して参ります。

1. 「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した。リハビリテーション分野について高い見識を有する 9 名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

各評価委員には、事前に自己評価報告書および学校評価に関する資料を配付した上で指導や意見を伺った。委員からの指導や意見は校長、副校長、事務長が聞き、その内容を要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	所属	職名
宮野 清孝	一般社団法人 山口県理学療法士会	会長
白澤 伸一	一般社団法人 山口県作業療法士会	顧問
矢木田 早苗	山口県言語聴覚士会	会長
杉山 英樹	医療法人医誠会 都志見病院	理学療法士
高山 直美	医療法人和同会 山口リハビリテーション病院	作業療法士
藤井 鈴	医療法人和同会 山口リハビリテーション病院	言語聴覚士
上山 正範	医療法人協愛会 阿知須共立病院	(卒業生)
川上 真由子	地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立こころの医療センター	(卒業生)
江川 淳朗	日本赤十字社 山口赤十字病院	(卒業生)

3. 意見交換について

(1) 教育理念・目標

教育理念はパネルを学内に掲示し、ホームページや学生募集パンフレットに掲載しているが、まだ十分に伝わっていないと考えられるため、教育理念や学科毎の教育目標を学校行事や合同授業などで学生に対して伝えていくことが必要である。

リハビリテーション分野において理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がどのように関わっているかを学生や保護者に周知する方法を考えることが必要である。

本校の特色および地元就職における本校の強みについて地域に周知するための広報活動が必要である。

定期的に教育目標を見直し、理念、目標の達成度や成果を見える化して、学校の強みをアピールすることが必要である。

何のために周知が必要であるかを踏まえ、周知方法の検討と、その結果を活かす方法についても検討する必要がある

(2) 学校運営

中長期の学校運営計画を策定すべきと考える。

コア学園グループのスケールメリットが活かせるようにするべきである。

学校の活動内容を学校進学説明会、オープンキャンパス、ホームページ等で地域、高校生、保護者に対してもっと積極的に伝えていく必要がある。

教職員の業務量管理の適正化や業務効率化のための情報システムの定期的な保守や入れ替えの予算が必要である。

(3) 教育活動

カリキュラムの内容について現状の臨床現場の動向を踏まえることが必要である。

すべての専門領域の教員を配置するのは難しいので、教員の専門領域を把握し、専門外の教育に対しても積極的に取り組むべきであり、学校も教員の質の向上に協力するべきである。

養成校協議会が毎年実施する、養成校教員の長期研修について、これからも継続して積極的に参加すべきであり、長期研修に参加している期間の授業や学生状況の引き継ぎを周りの教員がしっかりサポートすべきである。

コミュニケーションが苦手な学生が見受けられる。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士という医療現場で働く職業人を養成する場であることから、コミュニケーション能力をもっと高める授業内容にする必要がある。

教職員の能力開発のための研修等をもっと積極的に検討すべきである。

(4) 学修成果

入学動機が希薄な学生に対して、退学を減らすことが”成果”と言えないのではないかと、入学を許可した学生に対して卒業まで責任をもって教育していくことが大事と考える。もちろん、あまりに適性の合わない学生に対しては別の道への指導も必要と考える。国家試験については、勉強

していれば受かるはずなのでしっかり取り組んで欲しい。

退学者が多い現状について PDCA サイクルにて改善を進めていくべきと考える。

国家資格取得のための 4 年間であることを入学後のオリエンテーションだけでなく、入学前から学生（生徒）や保護者に伝えていく必要がある。

学生支援室を設置し、専任職員により学習相談や就職相談を実施している。

在校生の学外での社会的活動や、卒業後の卒業生の活動をあまり把握できていない。

(5) 学生支援

進路、就職に関する支援体制が整備され、保護者との連携も適切になされているようだ。本校の特長として、ホームページ等を通じて前面に出していけばよいのではないかと。

スクールカウンセラーとの情報共有はもっと踏み込んでもいいのではないかと、また、メールでの相談窓口はあまり活用されていないとのことなので、相談窓口があることも含めて、もっと学生に周知する努力が必要である。

学友の輪を広めるようなきっかけ作り（共同での催し物の開催、忘年会、新年会など）

(6) 教育環境

AED を設置しているが、一部の教員だけでなく、教職員全員が使用できるよう救命講習を受講するとよい。

休憩時間や空きコマに自習をしようとする学生がいることは、とても重要で他に誇れることと思うので、もっと、学習スペースを充実させてもいいのではないかと。

備品管理を学生主体にするのは難しいと思うが、普段から意識的に整理整頓、物品を大切に扱うなどの教育が必要である。

(7) 学生の受入れ募集

医療職に就くことの心構えが足りない学生がいるのは充分あり得るので、入学後にもできるだけ多くの機会に心構えを指導し、合わない学生に関しては他の道を進めることも重要（よい形の退学）と考える。

漠然と医療職希望の学生が多いと思われるため、アピールポイントを明確にして、リハビリテーション職が目立つような伝え方を検討する必要がある。

理学療法士や作業療法士に比べて、言語聴覚士は認知度が低く、一方で現場ではスタッフが不足している。県言語聴覚士会などとも協力して、もっと積極的に職種をアピールし優秀な人材を輩出して欲しい。高校 1・2 年生のキャリア教育の授業などで行われている体験授業（出前授業）などでのアピールも必要である。

(8) 財務

借入金はなく、財政基盤がしっかりしている。

地元会計事務所により財務監査を行っている。

(9) 法令遵守

学生においては、臨床の場での法令遵守は徹底できていると思う。

個人情報保護などの情報セキュリティ対策を強化すべきだ。

(10) 社会貢献・地域貢献

公開講座や地域のイベントへの参加はとても良いと思う。リハビリテーション専門職のアピールは臨床現場でも大切なことと思っているので、学校でも特色を活かした活動を期待している。

平成 31 年 3 月